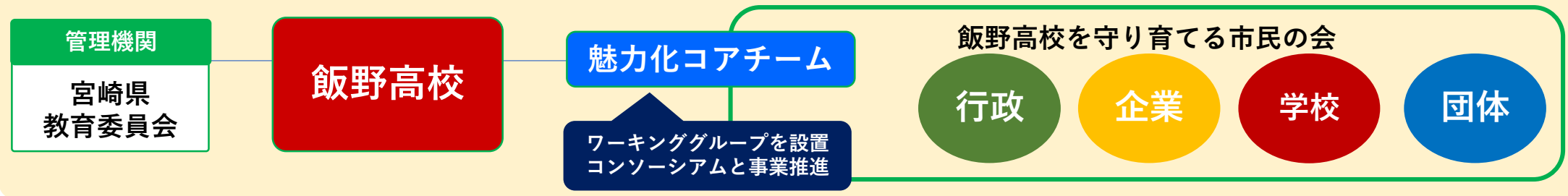


## 地域価値を創造するグローバル・ヒーロー育成に向けたカリキュラム開発および実践

本構想の背景には、宮崎県えびの市や周辺地域は、温泉郷をはじめ農産物などの豊富な地域資源がある一方で、様々な課題を抱えていることにある。そのために必要なことは地域課題を社会課題と結びつけ、課題・貢献意識を持ち行動を起こす人材を育成する高校である。

### 地域をフィールドにしたプロジェクト型学習（探究）の学びを通して社会を地域から分厚く支える人材育成

オーナーシップ、協働、デザイン力、実践力、創造的な判断力、自己表現力、社会変容への対応力、ICT活用力



#### 令和2年度の目標

##### カリキュラム開発

- ①カリキュラム内容の検証・考察
- ②学習全体の実施状況を測る成果発表会実施
- ③各教科と総合探究のリンク
- ④カリキュラム開発に関する戦略会議（コンソーシアムで作る魅力化コアチームによる会議）を年5回以上実施

##### 事業推進および外的影響

- ①外部講師を年間のべ100人以上招聘
- ②教育課程内外で協働する地域住民を100人以上
- ③視察受入、事例発表等による事業の波及（昨年度：視察5校+3団体、事例発表6件）

#### 取り組み状況

- ①プロジェクト型学習(カリキュラム内容の改善)地域貢献活動における企画提案型実習
- ②地域探究活動におけるハイブリッド型実践
- ③地域支援活動における学びのアウトプット
- ②グローバル学習成果発表会のオンライン開催(会場開催の変更→全国に配信)
- ③各教科学習への探究導入に関する職員研修の実施(各教科ごとに取り組み内容の作成)
- ④魅力化コアチーム委員会の実施(5回)→対話型、生徒との意見交換も実施
- ⑤外部講師や地域住民とのセッションにおけるオンライン、オフラインを併用したハイブリッド型学習の実践
- ⑥20回以上の(視察受入+研修での事例紹介+メディア等による)本事業の発信

#### 成果と課題

- ①コロナ禍→昨年度までの取り組みが活かした休校中の生徒主体の実践
- ②実践を通じた生きた学びから得られたものではないか(仮説の検証を行う必要性)
- ③30以上の地域におけるプロジェクトが展開(3年生※3つの学科コース全体)
- ④コンソーシアムとの協働により地域と高校の結びつきによる学びの土壌の醸成
- ⑤グローバル学習成果発表会をはじめオンラインを活用した学びの実践
- ⑥社会全体の変容における「できることをやる」姿勢の浸透
- ⑦県内への就職状況は86%(目標値80%)
- ⑧評価の在り方の検証の必要性
- ⑨飯野モデルの構築の必要性